日本での食べ歩きについて

日本で生活している中国人のママに街中の案内をしながら歩いていたら、ママから「先生どうぞ」とおせんべいを差し出された。そのママはまだ日本生活が浅く、私が彼女に日本語を教えているので私のことを先生と呼んでくださっている。ママからおせんべいを受け取った私も確かに小腹は空いていたが、あとで家に帰ったら食べようと思って、私はかばんにしまった。そしたら、ボリボリボリ…と聞こえ、おや？と思って顔を上げてみると、そのママはその場で立って食べ始めたのです。

そのママが言うに、おなかが空いたときのことを考えてあえておせんべいを持ってきていて、家に着くまでまだ少し時間があるから、今食べるのだと。その光景を見ていると私は少し違和感を覚えた。

食べ歩き禁止のマーク

東南アジアへ旅行に行くと食べ歩きを目にすることがかなりあるが、日本の街角では、立って食べる人はもちろん、歩きながら食べている人はあまり見かけない。お祭りやイベント、観光地などでしたら話は別ですが、普通の道端や駅前などではあまりいない。

これはなぜだろう。日本では多くの人は子どもの頃家庭の中でしつけとして食事のマナーを教わる。例えば、食事をするときはみんな揃ってから食べる、背中を伸ばして座って食べる、テーブルに肘をつかない、お手洗いなどは事前に済ませておき食べ終わるまで立ち上がらない。口に入っているものを全部食べてからごちそうさまをする。などの内容をしつけをされていることが多い。立ちながら食べることや歩きながら食べることは行儀が悪いとされている。

食事の時、ひじ、こし、ひざが９０度になるとよい

公共の場である街角で食べることは行儀が悪いという以外にもいくつかの理由が考えられる。歩きながら食べることで道路を汚してしまったり、人につけてしまったりとする他人へ思いやりからということも考えられる。また、日本文化で大事にされている美徳という面から考えると、街角で立って食べるという行為は美しい行為であるとは考えにくい。むしろ、目にした人からみれば、みっともないとさえ思うかもしれない。「みっともない」という日本語は、諸説あるが、「見とうもない（見たくもない）」という語源から来たと言われている。そばにいた通りがかりの人たちからすれば、「人が食べているその行為は自ら進んで見たいと思うものではなく、見たくないと思っていても目に入ってしまうから嫌、本当は見たくないのに。」という気持ちがあるかもしれない。

少し本題からはそれてしまうが、一昔前の筆者が幼かった頃の中国でよく見るパジャマ姿で街中を散歩する、男性が上半身で近所をうろつくなどの行為。あるいは、日本でも時々見かける電車内での化粧をするというような行為も、なぜどうしていけないのかと聞かれると答えにくい部分もあるが、本当の理由はこの「みっともない」というから来るものもあるのではないだろうか。

東急電鉄に上演している広告「でも時々、みっともないんだ。」

話を一旦本題に戻そう。では、冒頭の中国人ママのように、外にいるときに少しおなかが空いてしまった場合、どうすればよいのだろう。多くの日本人はきっと公共の場である街角ではなく、プライベートなスペースまたはその行為を行っても良いとされる場所へ行くのではないだろうか。

例えば、喫茶店かレストランなどのお店に入って食べる。きっとこうする人が最も多いだろう。もう少し簡単に済ませたい場合は、コンビニやスーパーなどで買って、それから併設されている休憩スペースで座って食べる。場合によっては買ったものを自分の車の中で食べたりすることもあるだろう。

ただ、ここでいう休憩スペース、つまり買ったものをどこで食べるかの「場所」も実は複雑。人それぞれの感覚にずれや違いはあるので一概には言えないが、恐らく、フードコートやコンビニのイートインコーナー（お店が設けている飲食スペース）で食べることは一番違和感がない自然な場所となるでしょう。ただし、食べているものはその場所で買ったものに限る。持ち込んだものを食べていたり、逆に何も買わないでそこに長時間居座ることはあまりよいことではない。

一方で、コンビニで買ったおにぎりとコーヒーを食べながら歩くことはもちろん、電車待ち時間の間にホームで食べたり、電車内で食べたりするのはみっともないと思われる可能性が高い。食べる場所が公園となる場合はかなりグレーなゾーンである。例えば、

何人かの子どもとママたちがレジャーシートを敷いて食べていたら微笑ましい光景になりますし、作業服やスーツを着た男性がお昼時に一人で食べていると、いけないことではないがどこか寂しいようなみすぼらしいような光景になることもある。

日本にいると、「みんなが〇〇」とよく耳にする。島国で稲作文化であった日本では昔から村の存在が大きく、生計の糧となる稲作は周囲との協力がなければ成り立たないのである。そのために、日本人は今でも常日頃から周りや世間からの見た目、美徳を気にしている。周りからの少しでも規律違反やルールから外れたことをしようものなら、その家が「村八分」といって関係を断たれるということから、仲間はずれにするという意味で「村八分」という言葉もある。日本人を説明するのに協調性、集団性、画一性というような言葉を使われることは多いが、これは良くも悪くもなるのだ。

特定の場所を除けば、通常の街では確かに食べ歩きの人が少ない

最終的に要約すると、日本の街中では食べ歩きはなるべくしない方が良い。なぜかというと、郷に入れば郷に従えということわざもあるように、日本では「みんながそうしているから。」

文　原田捷子